

国立研究開発法人国立がん研究センター

中央病院・東病院の概要



2015年10月

国立がん研究センター中央病院・東病院 略史

- 旧厚生省（現在の厚生労働省）により、6施設ある国立高度専門医療研究センターのひとつとして創設
- 日本のがん治療・研究を牽引

1962	1月	国立がんセンター設置
1962	5月	病院診療開始 国立がんセンター病院開院 (現 国立がん研究センター中央病院)
1992	7月	東病院開院 (千葉県柏市)
2004	2月	がん予防・検診研究センター開所
2005	10月	臨床開発センター開所 (千葉県柏市)
2006	10月	がん対策情報センター開所
2010	4月	独立行政法人へ移行
2012	9月	早期・探索臨床研究センター (EPOC) 開所 (現 先端医療開発センター)
2015	4月	国立研究開発法人へ移行

国立がん研究センターの理念・使命

国立がん研究センターが目指すもの

がんにならない、がんにはげない、がんと生きる社会

理念

患者・社会と協働し世界最高の医療と研究を行う

使命

- | | |
|---------------|------------|
| 1.がんの本態解明と予防 | 5.情報の収集と提供 |
| 2.高度先駆的医療の開発 | 6.人材の育成 |
| 3.標準医療の確立と普及 | 7.政策の提言 |
| 4.サバイバーシップの充実 | 8.国際貢献 |

スローガン

革新への挑戦と変革 Novel, Challenge and Change

職員の全ての活動はがん患者のために！ All Activities for Cancer Patients



1970年制定

癌の文字からヤマイダレを取り除き
品とし、これを図案化したもの
内側の3つの輪は、
1.診療、2.研究、3.教育を、
外側の輪は、
患者・社会との協働を
表しています



組織図

理事長

理事会

執行役員会

企画戦略局

研究支援センター

人材育成センター

支持療法開発センター

先進医療評価室

中央病院

東病院

研究所

先端医療開発センター

がん予防・検診研究センター

がん対策情報センター

事務部門

監事

全職員数: 2967名
2015年4月1日時点



中央病院の診療状況

2015年4月現在

- 病床数： 600床 (ICU 8床)
- 医師： 283.0名 (常勤：171名、非常勤：140名)
- 看護師： 548.8名 (常勤：540名、非常勤：11名)
- 薬剤師： 48.2名 (常勤：33名、非常勤：19名)
- 職員計： 1,159.7名 (常勤換算)

- 入院患者数 (2014年度)
 - ✓ 1日平均：513.5人、平均在院日数：12.5日
- 外来患者数 (2014年度)
 - ✓ 1日平均：1228.0人
 - 通院治療センター数：1日平均112.7人 (うち治験：11.7人)
- 治験外来患者数 (2014年度)
 - ✓ 1日平均：34.6人
- 年間手術件数：4,966件 (2014年度)

東病院の診療状況

2015年4月現在

- 病床数： 425床（ICU 8床、PCU25床）
- 医師： 182.7名（常勤：104名、非常勤：115名）
- 看護師： 410.5名（常勤：390名、非常勤：43名）
- 薬剤師： 51.2名（常勤：32名、非常勤：24名）
- 職員計： 993.7名（常勤換算）

- 入院患者数（2014年度）
 - ✓ 1日平均：381.3人、平均在院日数：13.1日
- 外来患者数（2014年度）
 - ✓ 1日平均：1,016.1人
 - 通院治療センター数：1日平均119.0人（うち治験：10.3人）
- 治験外来患者数（2014年度）
 - ✓ 1日平均：33.7人
- 年間手術件数：2,959件（2014年度）

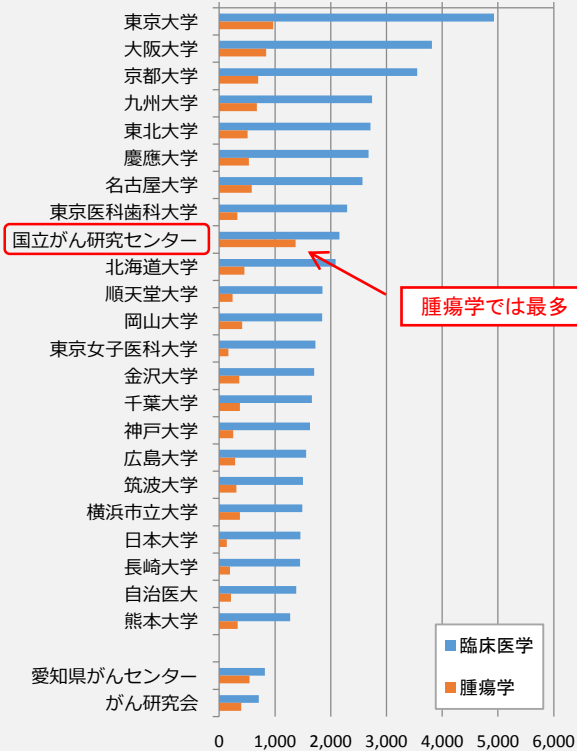
参考：日本国内の主な医学系研究機関との比較

Web of Scienceによる集計

(1) 本国内の主な医学系研究機関との比較

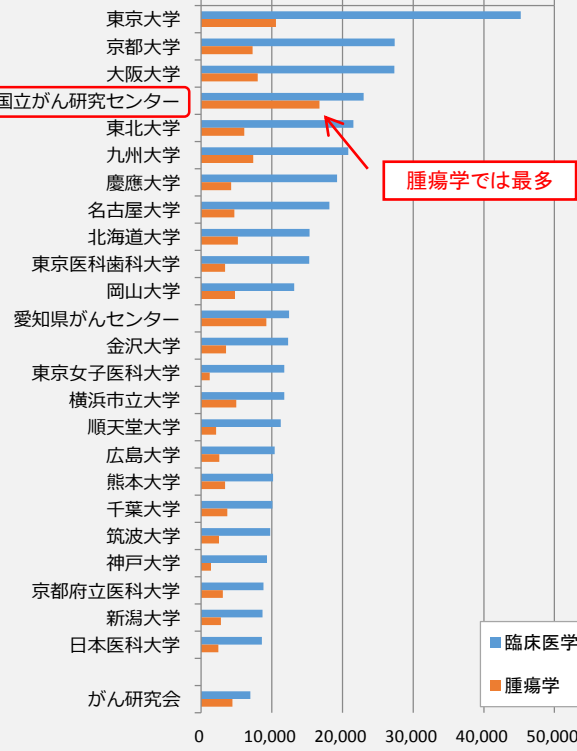
1) 論文数 (直近5年間の累計)

- 腫瘍学(oncology)では、最多。
- 臨床医学(Clinical Medicine)分野※全体で見ても、論文数は主要大学に次ぐ。



2) 被引用数 (直近5年間の累計)

- 腫瘍学(oncology)では、最多。
- 臨床医学(Clinical Medicine)分野全体で見ても、被引用数は東京大学、京都大学及び大阪大学に次いで4番目。

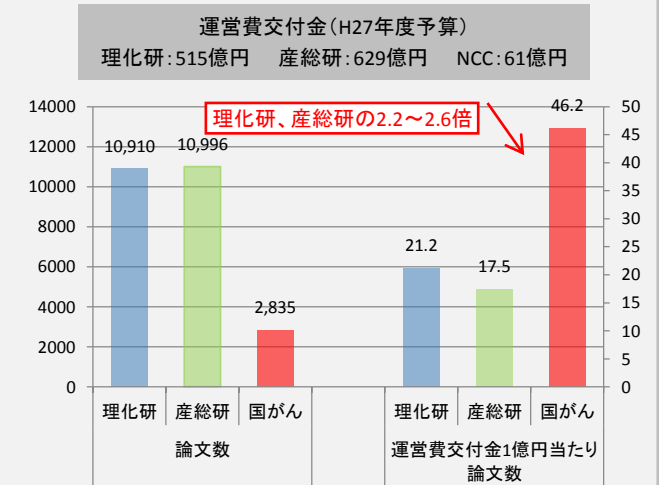


出典：トムソン・ロイター「InCites Global Comparison」を元に国がん研究センター（国がん）において集計
 ※1 「InCites Global Comparison」は、「Web of Science」のデータを元に、臨床医学(Clinical Medicine)など22の主要分野に分類している共に、腫瘍学(oncology)等の詳細なタグ付けが行われている。ただし、データベースの更新時期が異なるため、「Web of Science」の論文数と一致しない場合がある。
 2 有力医学部を有する大学、がんセンター及び主ながん研究機関について集計。
 3 被引用数は、公開した論文が Web of Knowledge 製品データベースの他の論文で引用されている回数（それぞれの論文が科学的にどれだけインパクトを与えているかの指標。）

(2) 他の国立研究開発法人との比較

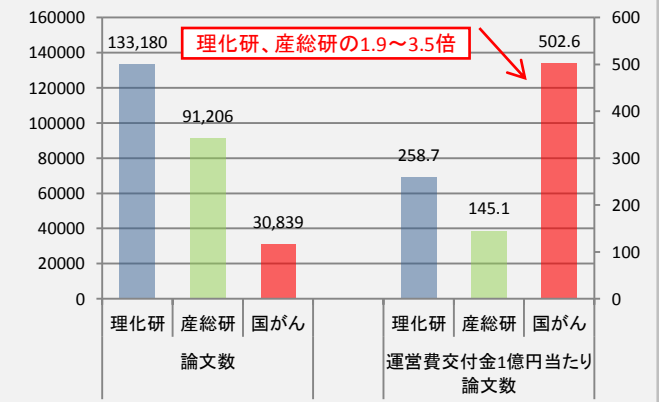
1) 論文総数 (直近5年間の累計)

理化学研究所及び産業技術総合研究所と運営費交付金の規模あたりの論文数を比較すると、「国がん」は両法人の2.2~2.6倍となる。



2) 被引用数 (直近5年間の累計)

論文被引用数では、「国がん」は両法人の1.9~3.5倍となる。



1) 総合順位

- 22分野における高被引用論文数の研究機関の総合ランキングは19位(論文数では47位、被引用数では24位)であり、国立研究開発法人の中では4位。
- 高被引用論文数の割合は、理化学に次いで2位。

順位	機関名	高被引用論文数(A)	高被引用論文の割合	運営費交付金等の規模との比較	
				交付金(億円)※(B)	国がんを1とした場合の交付金規模当たりの数(A/B)
1	東京大学	1062	1.38	961	0.67
2	京都大学	589	1.04	620	0.57
3	国立研究開発法人 理化学研究所	455	2.01	515	0.53
4	大阪大学	423	0.93	493	0.52
5	東北大学	392	0.87	485	0.49
6	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	306	1.17	629	0.29
7	名古屋大学	275	0.91	319	0.52
8	東京工業大学	235	0.94	221	0.64
9	国立研究開発法人 物質・材料研究機構	216	1.59	119	1.10
10	九州大学	207	0.66	429	0.29
11	筑波大学	198	1.02	412	0.29
12	北海道大学	169	0.56	391	0.26
13	広島大学	151	0.9	260	0.35
14	岡山大学	146	1.03	182	0.48
15	早稲田大学	138	1.29	95	0.88
16	神戸大学	117	0.85	210	0.34
17	慶應大学	116	0.76	85	0.82
18	(共) 自然科学研究機構	109	0.95	298	0.44
19	国立研究開発法人 国立がん研究センター	101	1.83	61	1
20	(共) 高エネルギー加速器研究機構	99	1.66	228	0.26

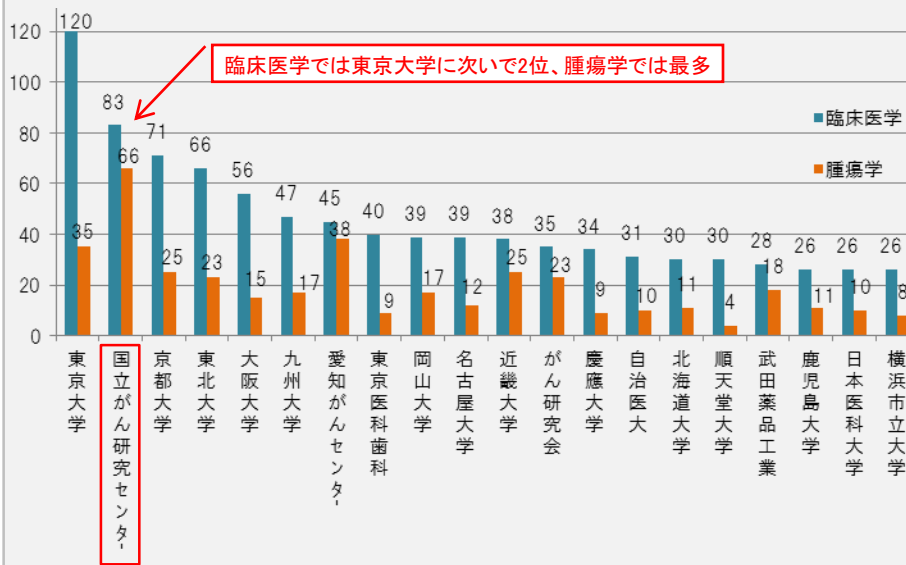
高被引用論文の割合は2番目に多い

2) 「国がん」における分野別の高被引用論文数・割合と順位

- 国がんは、8分野で被引用数が世界上位1%に入る論文があり、「臨床医学」においては2位、「社会科学・一般」では5位。

分野	高被引用論文数	順位	高被引用論文の割合
臨床医学	83	2	1.99
分子生物学・遺伝学	7	15	1.96
社会科学・一般	3	5	2.44
生物学・生化学	3	15	1.04
免疫学	2	12	1.56
薬理学・毒性学	1	6	0.63
神経科学・行動学	1	13	0.88
化学	1	22	2.70
総数	101	19	1.83

3) 研究機関別の臨床医学、腫瘍学の高被引用論文数



臨床医学の高被引用論文のうち、筆頭著者、責任著者のいずれかになっている論文数
 国がん: 37論文、東京大学: 28論文

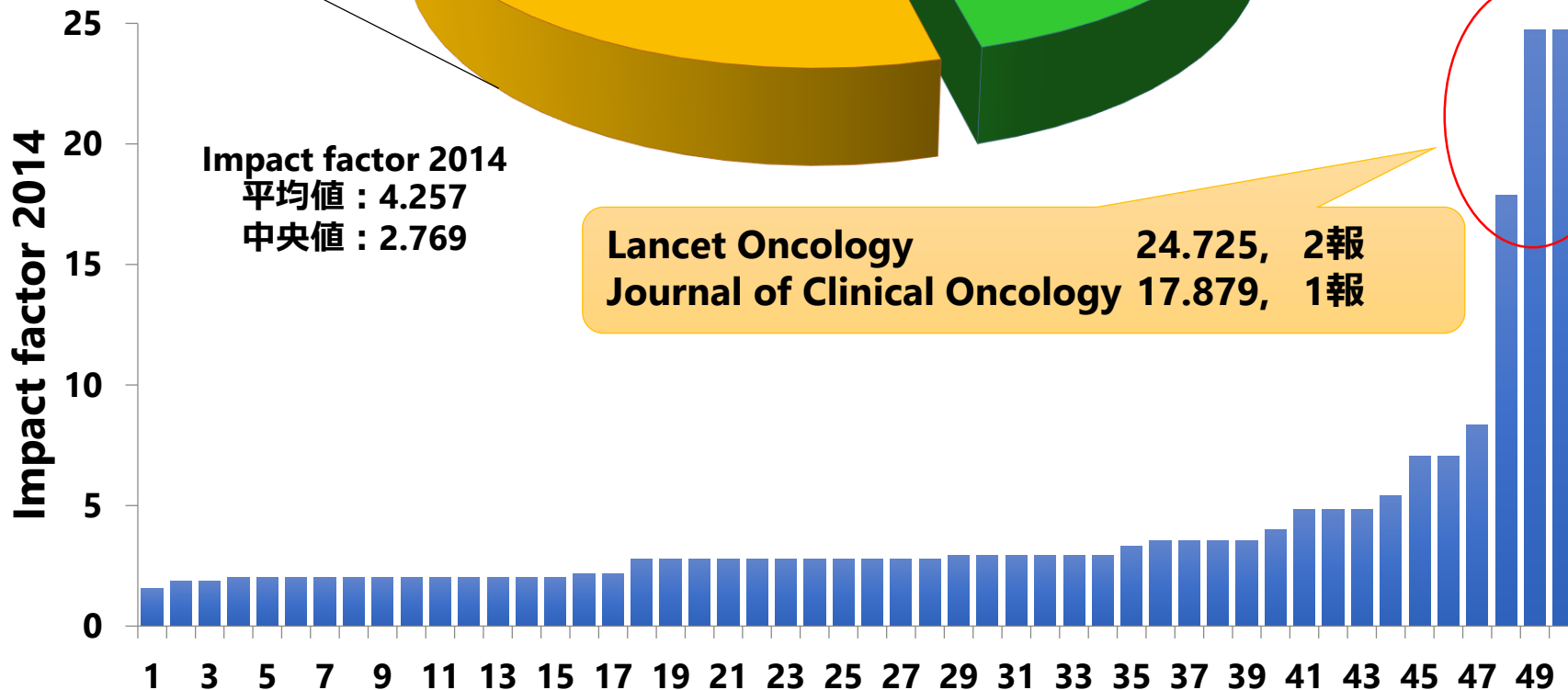
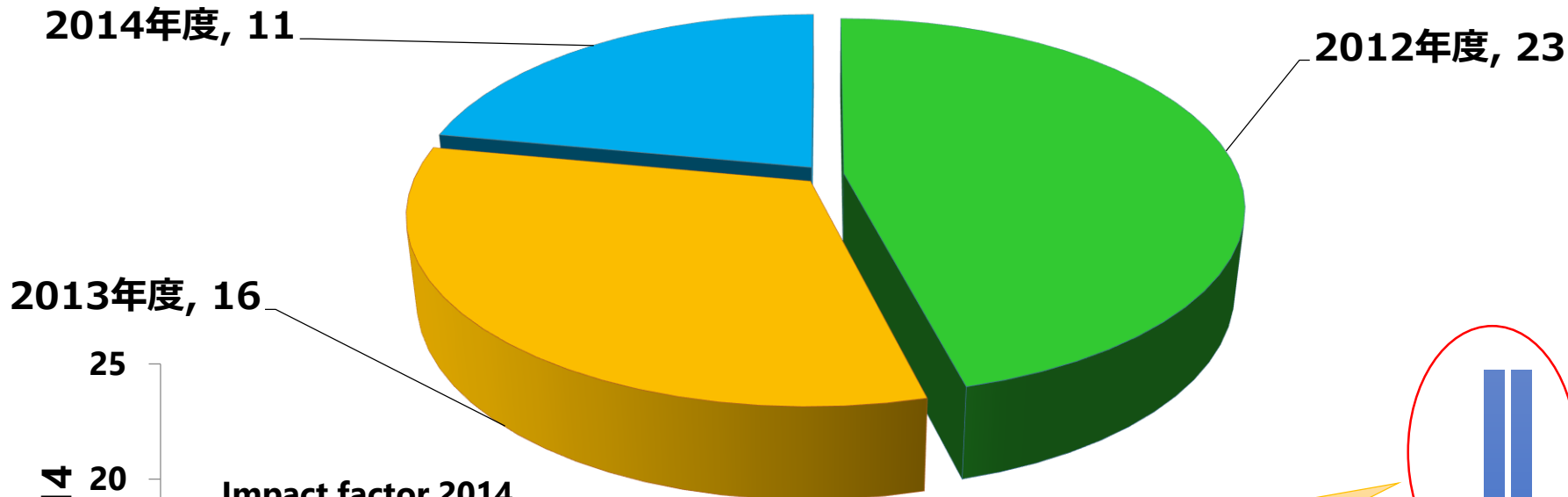
1. 出典：トムソン・ロイター「Essential Science Indicators (ESI)」を元に国立がん研究センター（国がん）において集計
2. ESIは、科学全体を大きく22の研究分野に分類して、各年・分野別に被引用数が世界でトップ1%に入る論文を高被引用論文として特定し、研究機関別にその数を公表している。本集計は、ESIに収録されている研究機関情報から、日本国内の研究機関と比較できるようにすることで、国立がん研究センターがどれだけインパクトの高い論文を出しているのかを示す指標とした。
3. トムソンロイターと同様に、科学技術振興機構(JST)はファンディングエージェンシーとしての事業内容を鑑みランキングには入れていない。

※ 交付金：国立大学、国立研究開発法人、大学共同利用機関法人は運営費交付金の平成27年度予算額、私立大学は平成25年度の私立大学等経常費補助金を計上している。



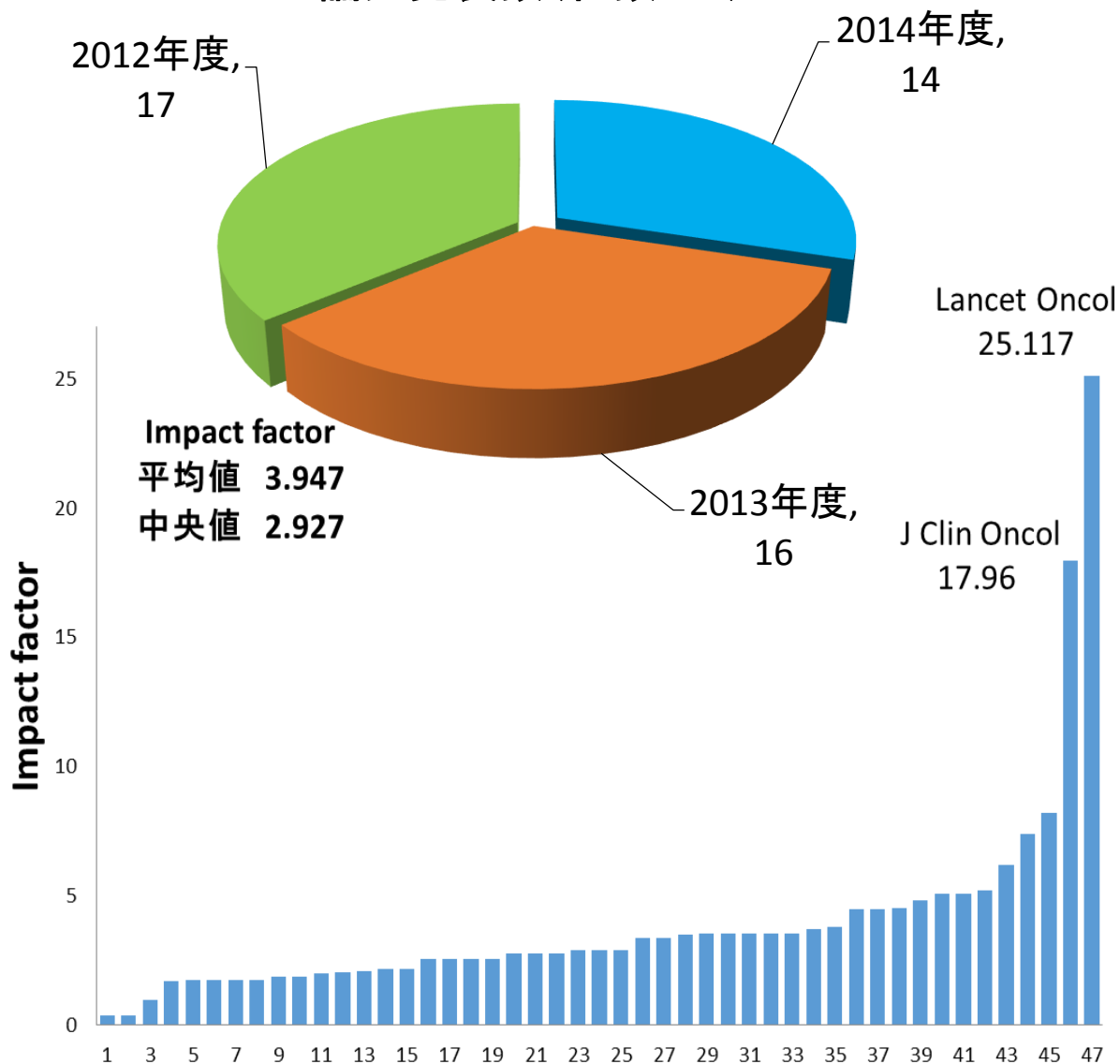
中央病院 論文発表の実績 (2012-2014年度)

論文発表数 (総数 : 50)



東病院 論文発表の実績 (2012-2014年度)

論文発表数(総数:47)



中央病院 臨床研究実施状況



臨床研究実施方針

国立がん研究センター中央病院における臨床研究実施方針

国立がん研究センター中央病院は日本のがん診療を担う中枢病院として、患者さんに最高の医療を提供するとともに、以下の方針のもとにがんに関する臨床研究を実施しています。

1. より優れたがんの予防、診断、治療を開発・評価するとともに、その成果がより速やかに日本ならびに世界の診療に生かされるよう、中央病院に限らず、国内外の社会的および科学的な意義を有する優れた臨床研究を支援し、これを実施します。
2. ご協力いただく患者さんの尊厳と人権を守ることを最優先し、すべての関係者が該当する国の法令やガイドラインを遵守します。

中央病院の臨床研究実施方針

国立がん研究センター中央病院における臨床研究実施方針（つづき）

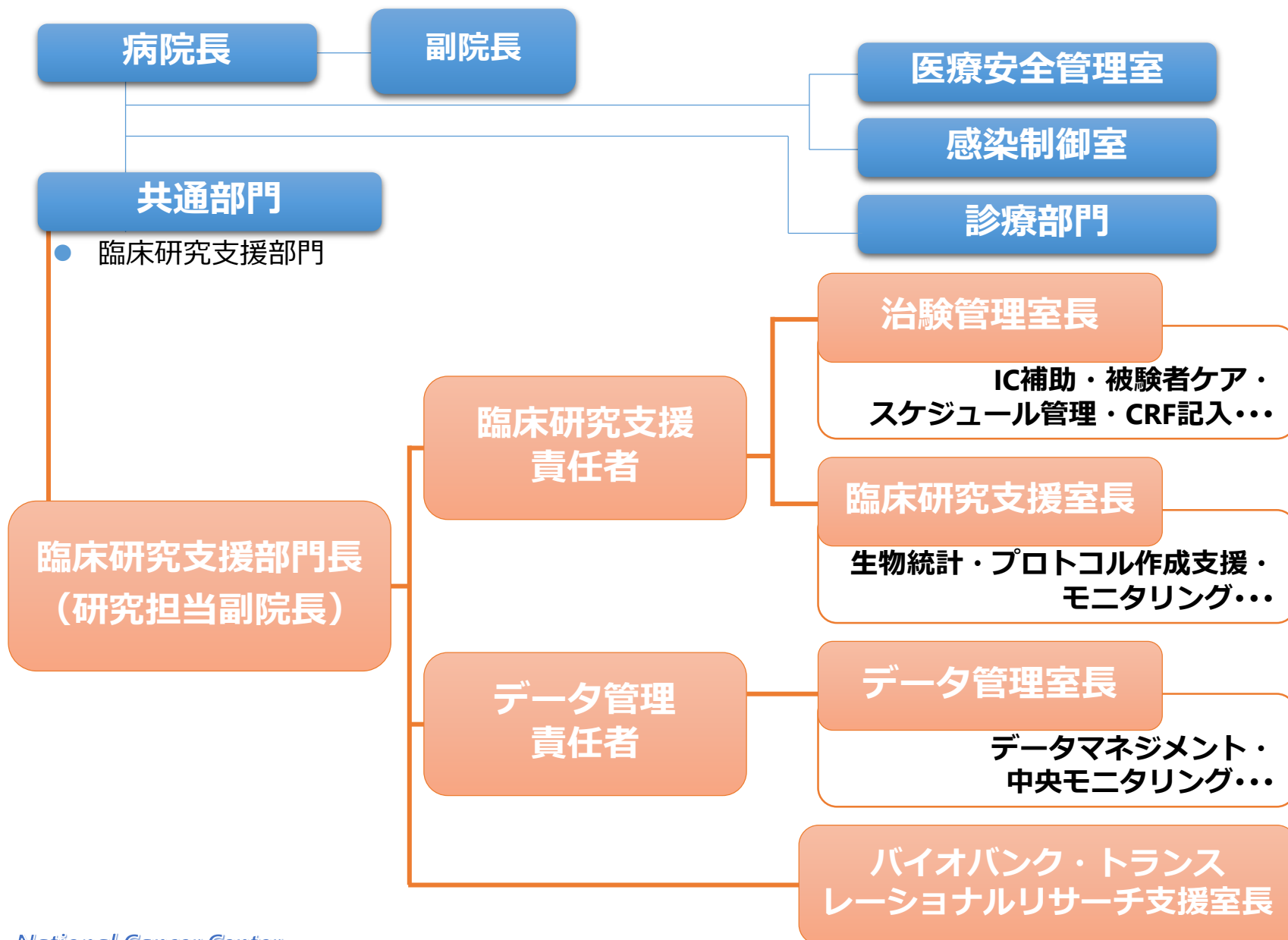
具体的には、

- 外部委員の方を含む研究倫理審査委員会において、倫理的・科学的観点から妥当と判断され、承認された臨床研究のみを行います。
- 患者さんへの負担、予測されるリスク、利益を総合的に評価し、患者さんの不利益が最小限となるよう最大限の配慮をするとともに、十分な説明を行い、患者さんの自由意志による同意を頂いた上で臨床研究に参加して頂きます。
- 患者さんの個人情報等の保護を遵守します。
- 研究の質と透明性を確保するため、治験・臨床研究運営委員会を設置し、病院内で実施されるすべての臨床研究を厳重に管理するとともに、研究不正を防止します。

私たちは、臨床研究は、将来のより良い診療に繋がるものであるとともに、参加された患者さんの希望や満足に繋がるものでなければならない、と考えています。

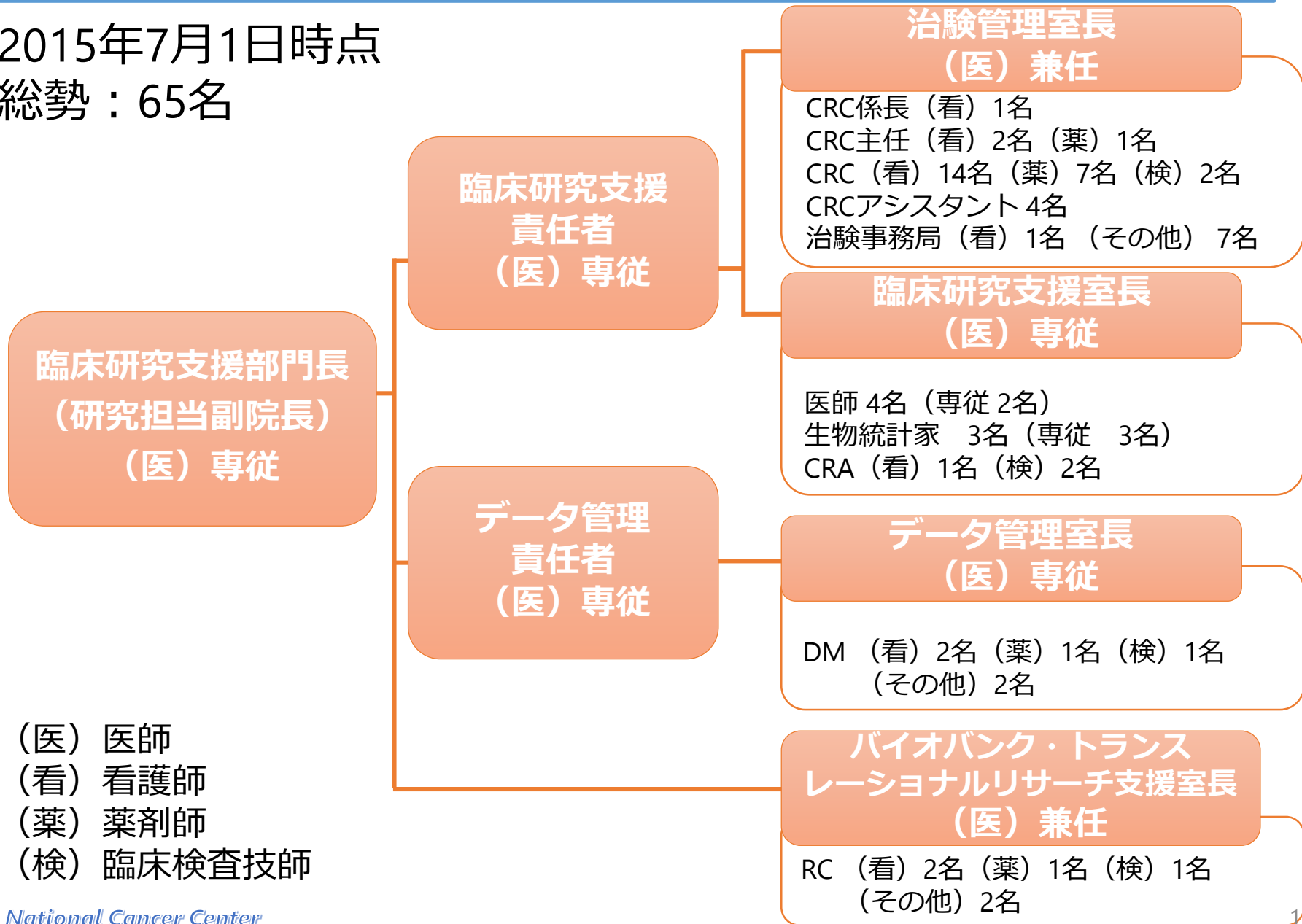
当院の臨床研究に対する取り組みに、ご理解とご協力をお願いいたします。

中央病院 臨床研究支援部門



臨床研究に携わる従業者の員数

2015年7月1日時点
総勢：65名



臨床試験*の実績

*医薬品・医療機器等を用いた侵襲および介入を伴う臨床研究

開始 年度	役割1のみ (当院医師が統括責任者)		役割2のみ (包括的な臨床研究支援)		役割1かつ2		合計
	多施設	単施設	多施設	単施設	多施設	単施設	
2012	6	8	8	0	1	0	23
2013	4	5	9	0	1	0	19
2014	7	1	7	0	2	0	17
3年間 合計	17	14	24	0	4	0	59

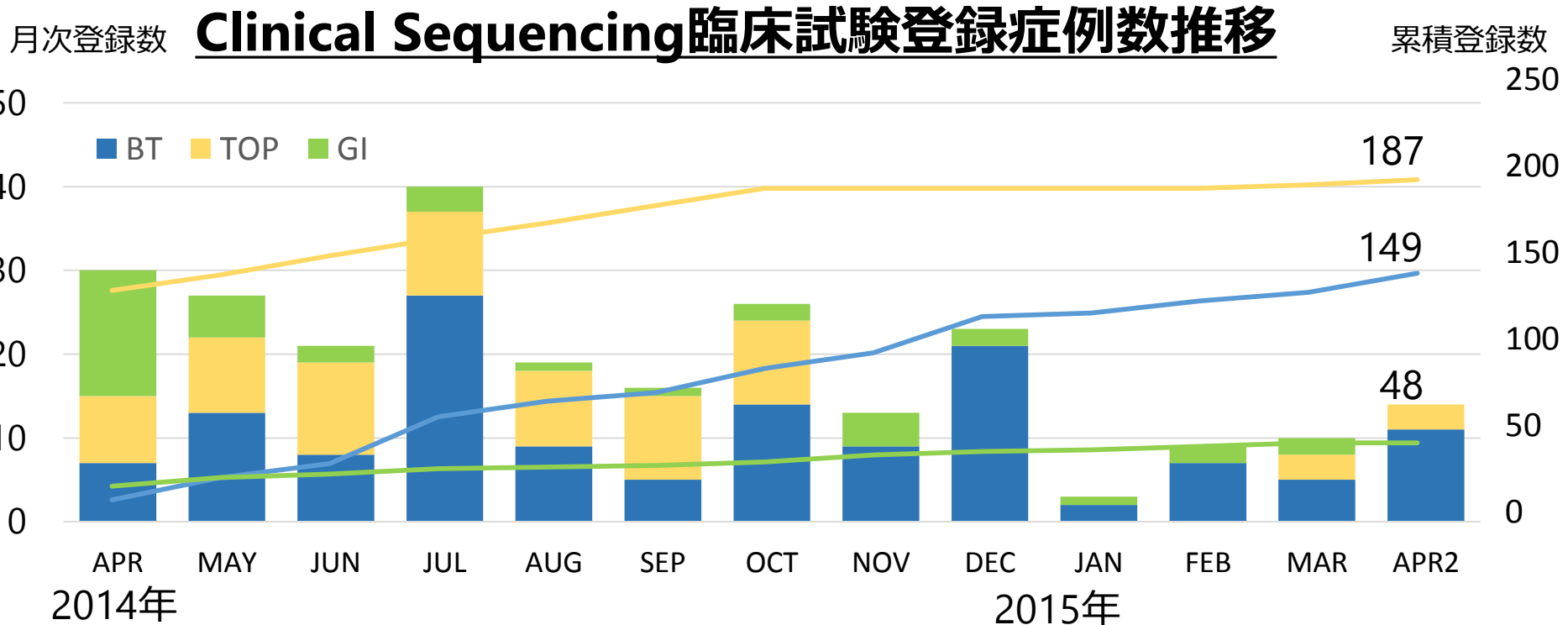
- 役割1：当院医師が統括責任者として、プロトコール作成、試験進捗管理、調整業務等を実施。
- 役割2：すべてJCOG（Japan Clinical Oncology Group）の試験であり、当院の臨床研究支援部門がプロトコール作成支援、患者登録、データマネジメント、中央モニタリング、施設訪問監査、有害事象報告等を含む包括的な研究支援を行っている。

トランスレーショナル試験支援

Clinical Sequencing臨床試験への支援体制:

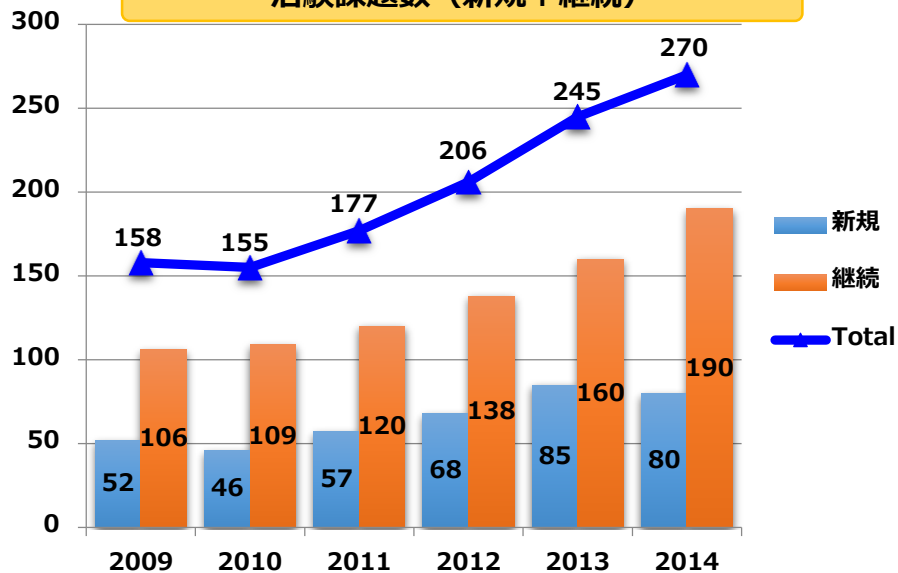
バイオバンク・トランスレーショナル支援室にて、BT-SCRUM(胆道がん)、TOP-GEAR(全癌種)、GI-SCREEN(消化管がん)の3つの臨床試験を支援。

Clinical sequence:がんの遺伝子プロファイルを見ながら効果がありそうな薬剤の第I相あるいはII相試験（治験）へエントリーを行う。

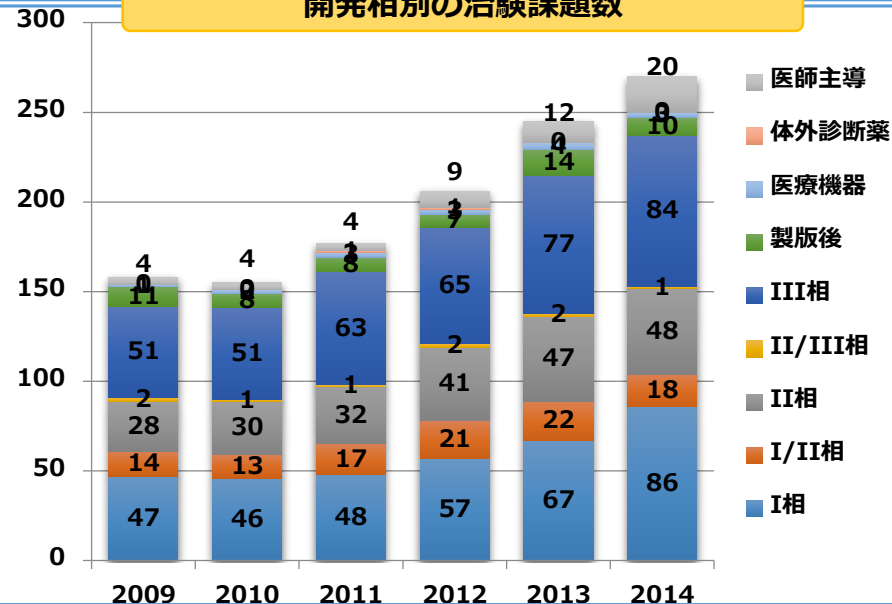


治験の実績

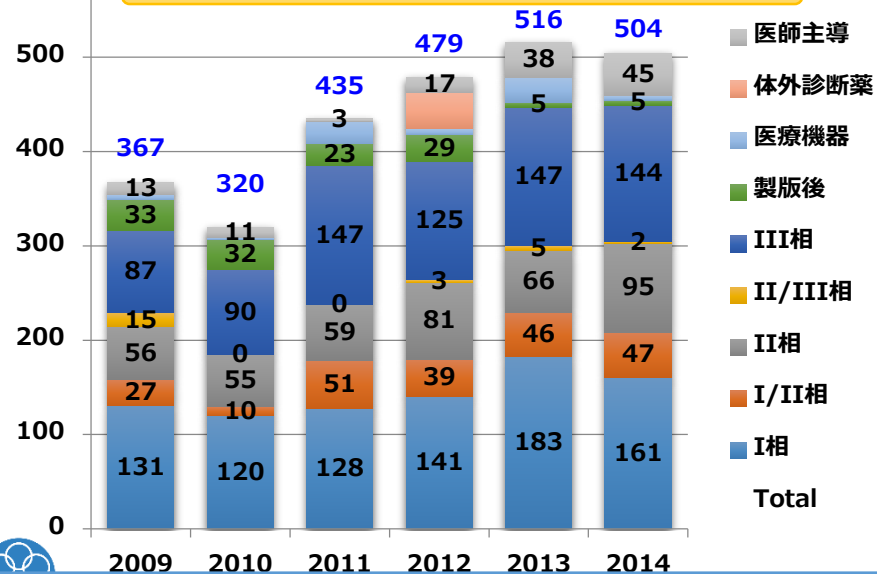
治験課題数（新規+継続）



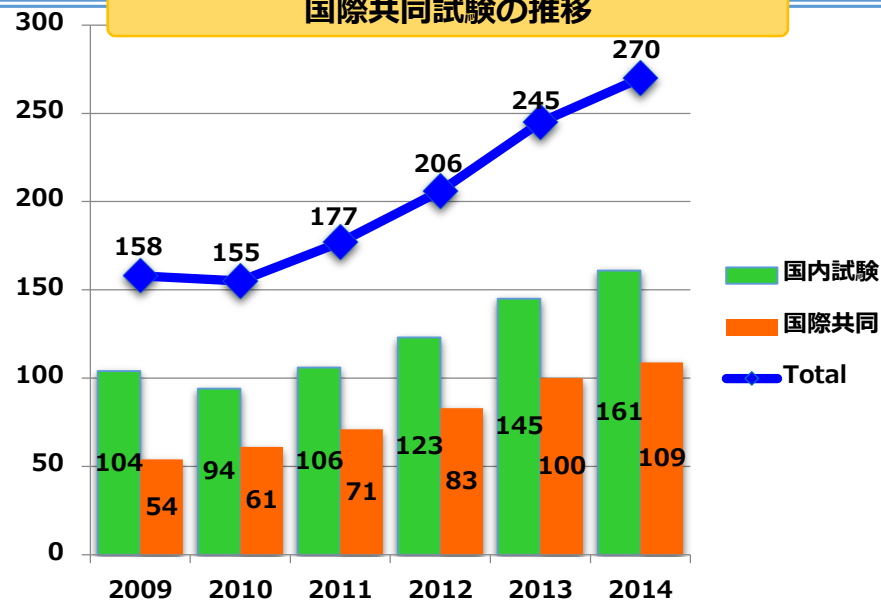
開発相別の治験課題数



登録症例数の推移



国際共同試験の推移



東病院 臨床研究実施状況

臨床研究実施方針

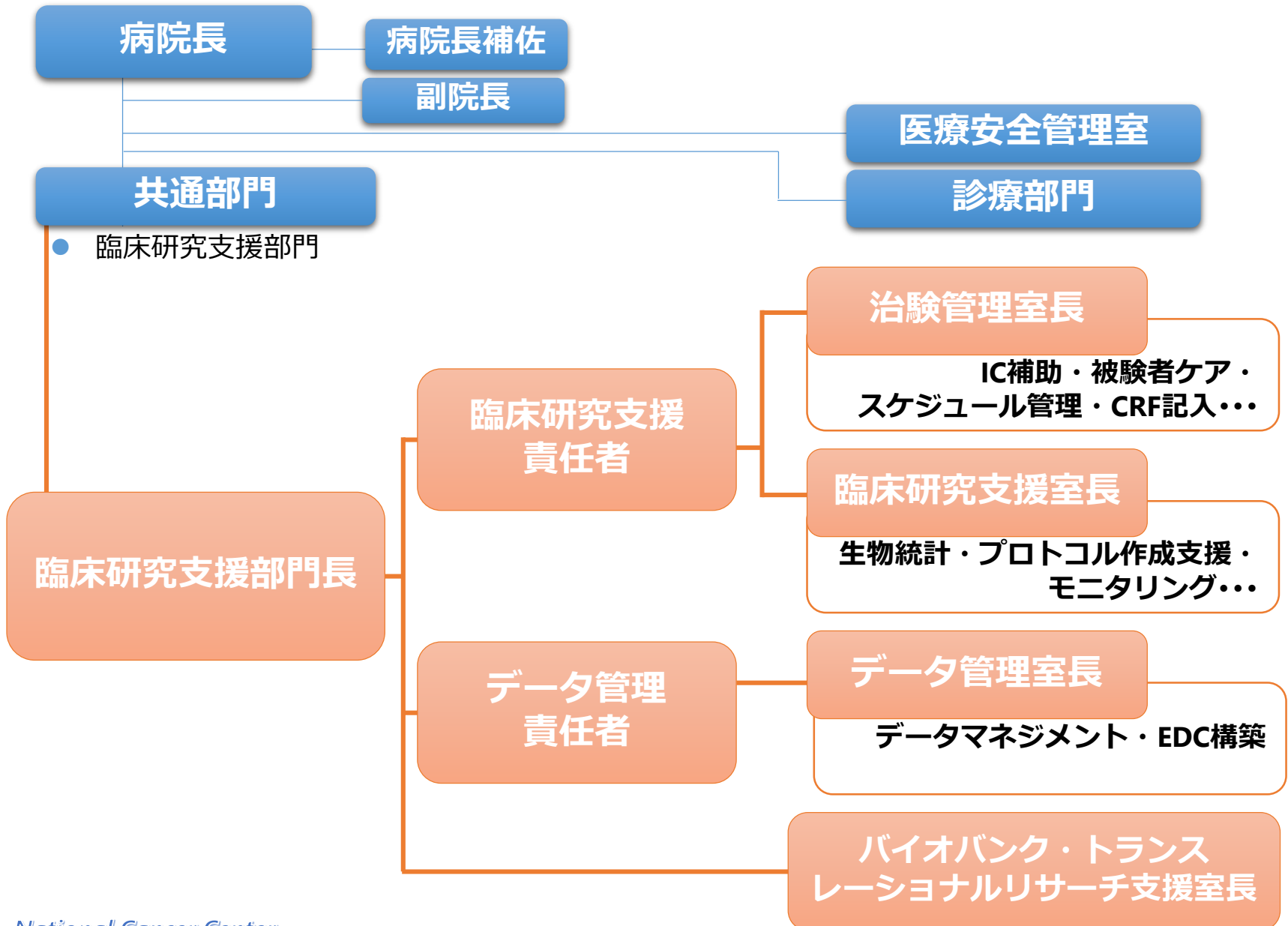
国立がん研究センター東病院では患者さんへ最良の医療を提供するとともに、新しいがん医療の創出に向けて以下の方針のもとに多数の臨床研究を実施しております。

1. 質の高い医療技術をいち早く患者さんに届けるため、最新の医薬品・医療機器の実用化を目指した臨床研究を行います。
当院で実施する臨床研究はすべて、該当する国の法令やガイドラインを遵守し、外部委員
2. の方を含む倫理審査委員会で倫理的・科学的観点から厳しい審査を受けて承認を得ることを必須としております。
3. 臨床研究に携わる全医療者に対して倫理性、科学性に関する教育を徹底し、患者さんへの不利益が生じないよう最大限の配慮をします。
4. わが国のがん研究の中心病院として、他施設の臨床研究に対しても可能な限りの支援を行います。
病院長をトップとした臨床研究管理委員会を設置し、病院内で実施されているすべての研
5. 究を厳重に管理し、研究不正を防止します。また、安全性の問題などが生じた場合は直ちに病院長をトップとして迅速な対応が取られるように体制を整備しています。

がん征圧に向けての当院の取り組みに対してご理解とご協力をお願いいたします。

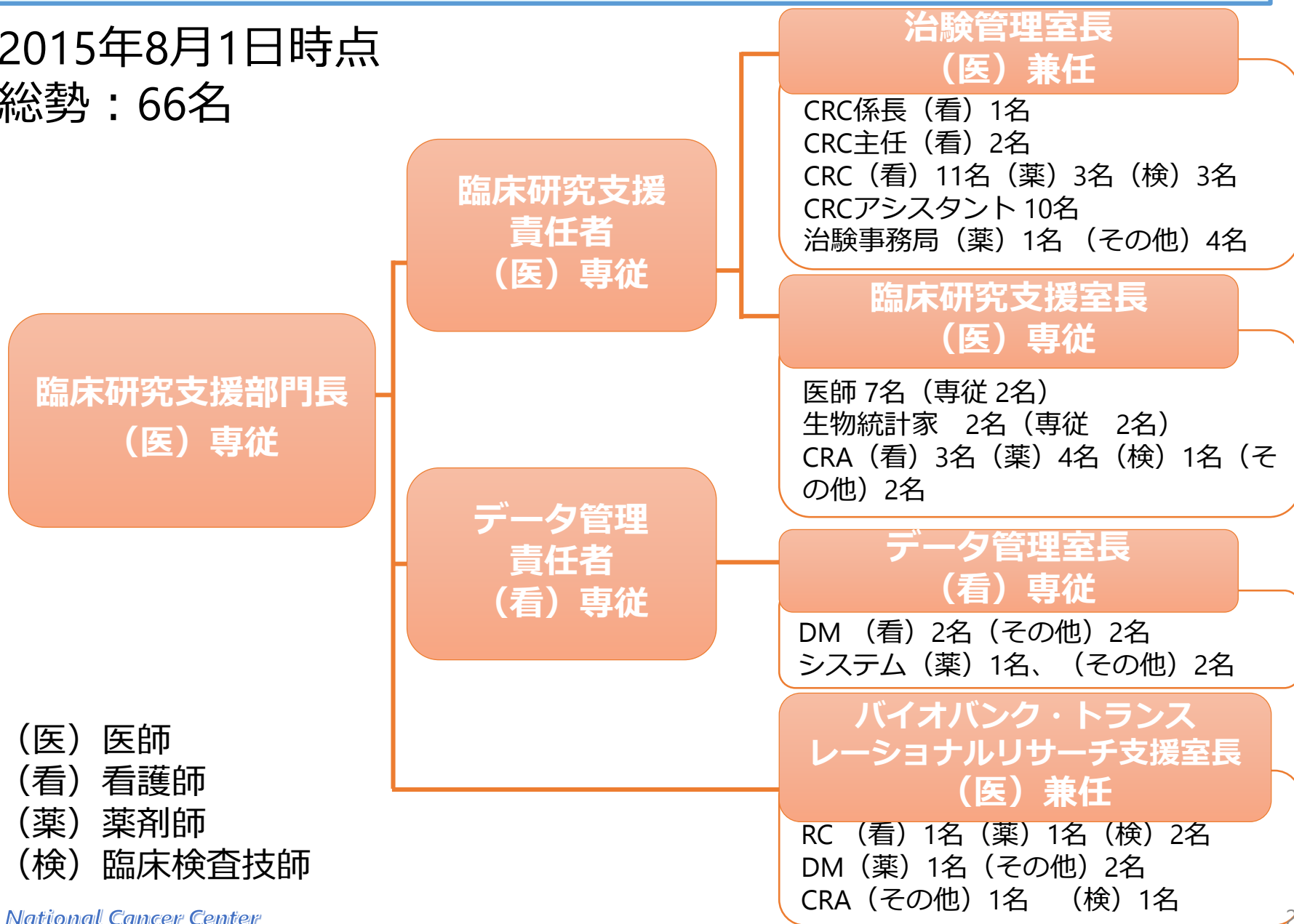


臨床研究支援部門



臨床研究に携わる従業者の員数

2015年8月1日時点
総勢：66名



臨床試験*の実績

*医薬品・医療機器等を用いた侵襲および介入を伴う臨床研究

開始 年度	役割1のみ (当院医師が統括責任者)		役割1かつ2 統括責任者 + 包括的な臨床研究支援		合計
	多施設	単施設	多施設	単施設	
	2012	7	1	1	
2013	6	0	0	0	6
2014	4	3	0	1	8
3年間 合計	18	4	1	1	23

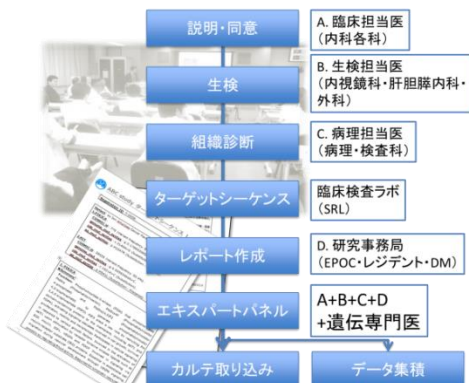
- 役割1：当院医師が統括責任者として、プロトコール作成、試験進捗管理、調整業務等を実施。
- 役割2：当院の支援部門が包括的な臨床研究支援業務を実施

トランスレーショナル試験支援

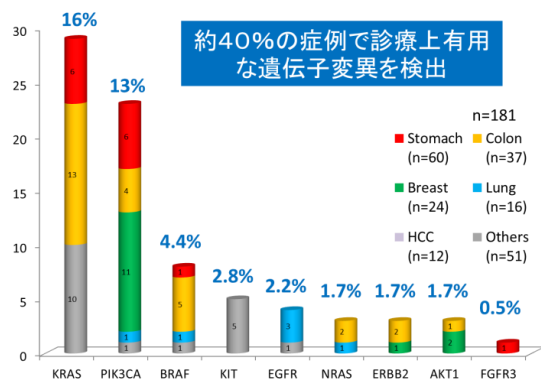
最先端技術の実地臨床への橋渡し研究の支援体制:

支援例① ABC Study (317例/2年)

次世代シーケンス技術を応用した進行がんバイオマーカー診断の実現可能性を検証



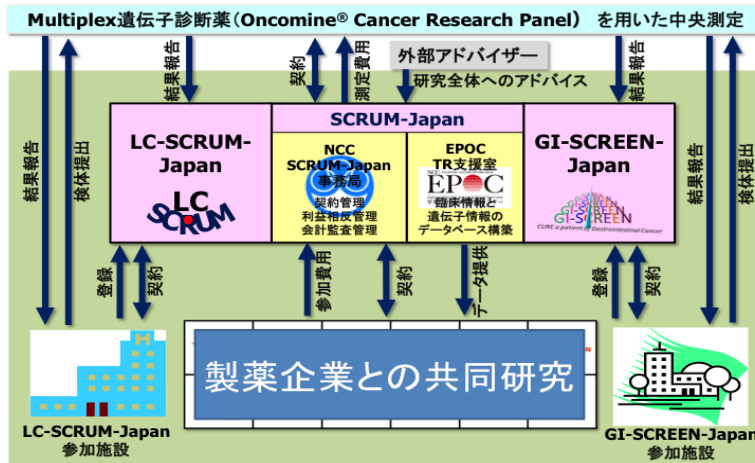
院内多職種が参加する診療科横断的な観察研究の進捗管理



最新のがんゲノム研究成果を反映したデータマネージメント

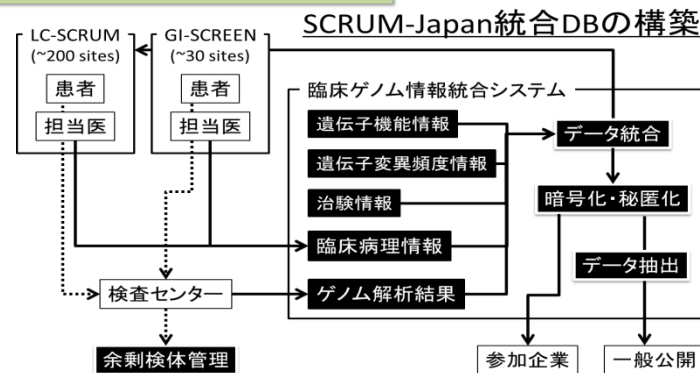
支援例② SCRUM-Japan

産学連携全国がんゲノムスクリーニング事業 -SCRUM-Japan-



全国約200施設の医療機関からの症例登録、検体収集。共同研究企業14社とのデータ共有を実施。研究全体の進捗管理

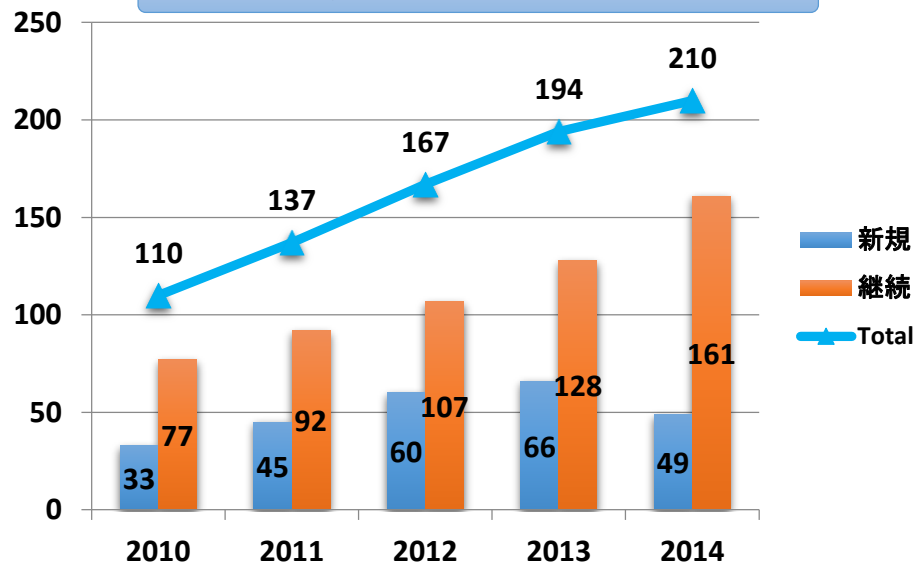
研究事務局、参加医療機関、共同研究企業が被験者保護に配慮しながらリアルタイムに全国ネットのデータ共有可能な情報システムの構築



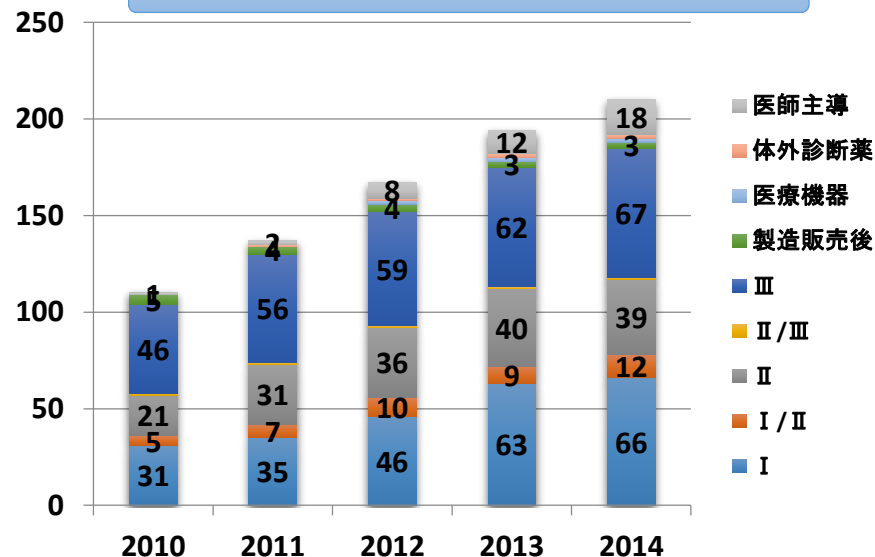
- 2016年度末までに4500例の解析を目標
- 2015年6月末(実働3か月)現在378例の登録

治験の実績

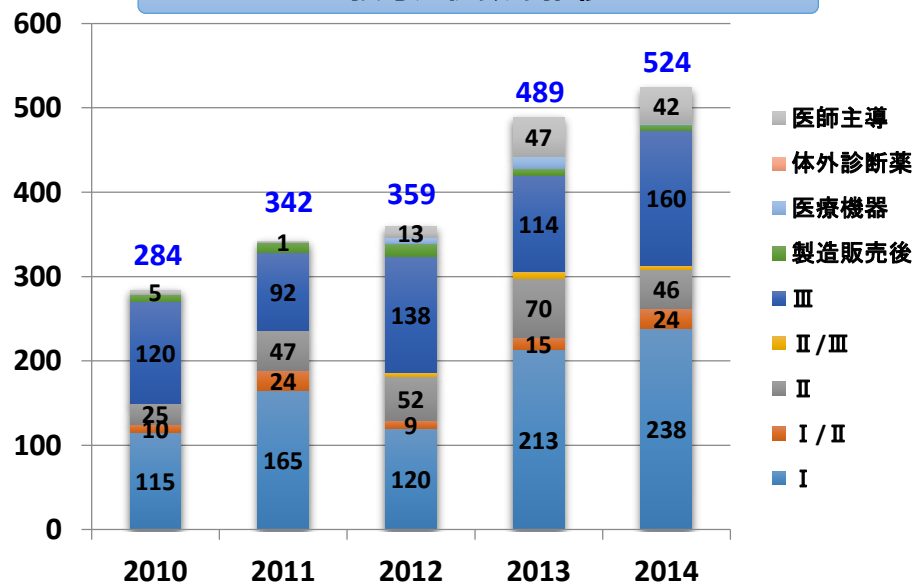
治験の実績（新規・継続）



治験の実績（治験の種類別）



投与症例数の推移



国際共同試験の推移

